読谷村のしまくとうば

～ 子どもの成長 ～

沖縄県読谷村

読谷村のしまくとぅば
～ 子どもの成長 ～

はじみてぃ　やいびーん。
わんねー　ゆんたんざミツ
やいびーん。
くまー　うっとぅぬ　タラー
やいびーん。
（はじめまして。
私 は読谷山ミツです。
こちらは 弟 の太良です。）

はいさい。
ちゅーや、いっぺー
たぬしみ　やいびーん。
ぐすーよー、
ゆたさるぐとぅ　うにげーさびら。
（こんにちは。
きょうは、とても
楽しみです。
みなさま、
よろしくお願いします。）

太良　　ミツ

よみとん

読谷山生まれのミツと太良が現代にタイムスリップ?!
みんなの生活をのぞきにきたよ。
むかしのことも教えてくれるかな。楽しみだね。
でぃっか、まじゅーん んーちんーだな!!
（さあ、いっしょにみてみよう!!）

もくじ

わんくとぅ（私のこと）

あいさつの言葉 …… 3
私の家族・親せき …… 5
私の身体 …… 7

っくわや たから（子は宝）

赤ちゃんが生まれた …… 9
出産祝い …… 10
成長する …… 11
満1歳の誕生日祝い …… 12
まよけ …… 13
子守歌とあやし歌 …… 14
小学1年生の入学祝い …… 16
乳歯が生えかわるころ …… 17
学校 …… 18
給食 …… 19
遠足 …… 20
いっしょに遊ぼう …… 22
おてつだい …… 24
十三祝い …… 26
合同生年祝い …… 27

しちびぬ くわっちー（行事のごちそう）

正月 …… 28
清明祭 …… 29
旧盆 …… 30
おにもち …… 31

この本を読むみなさんへ

❶この本では、しまくとぅばの文章をひらがなで書きました。共通語にはないしまくとぅばの発音で、五十音で書き表せないものは、次のように特別な表記を使っています。

★「**ぅん**」…のどに力をいれて発音する「ん」。「**ぅんむ**（芋）」、「**ぅんま**（馬）」、「**ぅんに**（稲）」など。
（一般に「ん」、「う」または「い」と表記されることもあります。）

★「**ゎう**」…ゆっくり低く発音する「う」。「**ゎうーじ**（サトウキビ）」「**ゎうじゃさー**（おじさん）」など。
（一般に「う」や「をぅ」と表記されることもあります。）

★「**ゐ**」…ゆっくり低く発音する「い」。「**ゐーゆん**（もらう）」など。
（一般に「い」と表記されることもあります。）

❷共通語の文章では、読みやすさを考えて、しまくとぅばをカタカナで書きました。「しまくとぅば」という単語はひらがなで統一しています。

❸読谷村内それぞれの地域の発音には違いがあります。

★「だ・でぃ・どぅ・で・ど」と「ら・り・る・れ・ろ」
例　筆／「**ふでぃ**」「**ふり**」
　　食べたよ／「**かだんどー**」「**からんろー**」
この本で「だ・でぃ・どぅ・で・ど」と表記したところは「ら・り・る・れ・ろ」という地域もあります。

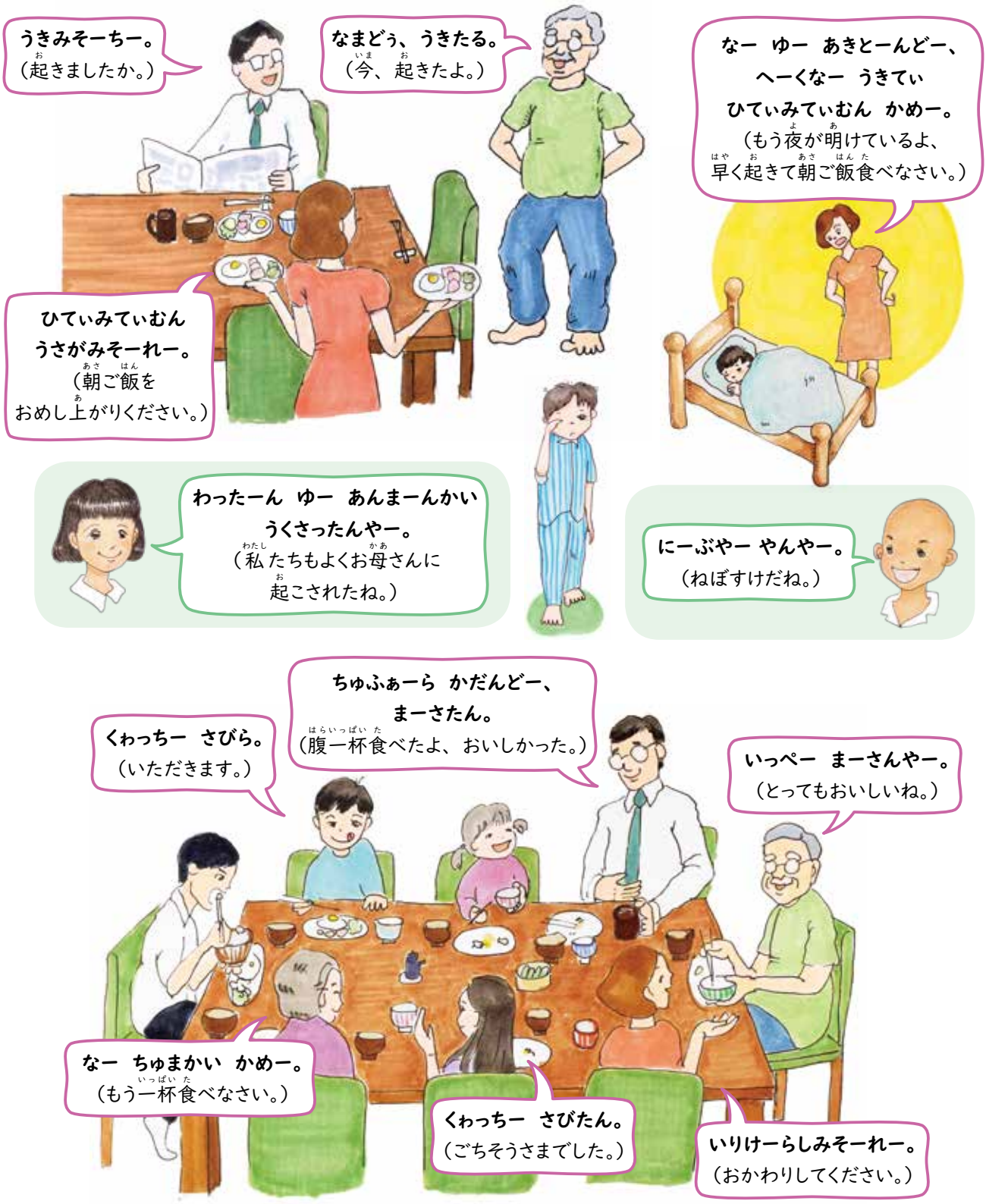
★明治時代に首里・那覇からうつり住んできた人たちの集落では首里・那覇言葉をのこしています。

★楚辺では、他の地域と違う発音の言葉が多いようです。
例　美しい／「**ちゅらはん**」（ちゅらさん）
　　着物／「**きん**」（ちん）
　　炒め物／「**いりかー**」（いりちゃー）
『楚辺誌（民俗編）』（556頁から576頁）には、楚辺方言の単語が多数収録されています。

この他にも地域や世代などにより、言い方の違う言葉も多くあります。

あかばなー
（ぶっそうげ・ハイビスカス）

〈あいさつの言葉〉 えーさちぬ　くとぅば



あいさつのしまくとぅば

目上の人にいうときと、同年生や年下の人にいうときでは言い方がちがうよ。「**うきみそーちー**（起きましたか）」「**うきてぃー**（起きた?）」、「**うさがみそーれー**（おめし上がりください）」「**かめー**（食べなさい）」、「**はいさい**（こんにちは）」「**はい**（やあ）」、「**まーかい めんしぇーが**（どちらへいらっしゃいますか）」「**まーかいが**（どこへ?）」など。

がっこーかい ぅんじ ちゃーびら。
（学校へ行ってきます。）
なま、けーてぃ ちゃーびたん。
（今、帰ってきました。）
けーてぃ っちー。
（帰ってきたね。）
ちー ちきてぃ いきよーやー。
（気をつけて行ってね。）

はいさい。
まーかい めんしぇーが。
（こんにちは。
どちらへいらっしゃいますか。）
うままでぃ、
ゆーじゅぐわーぬ あてぃ。
（そこまで、用事があって。）
めーなち、あちさいびーんやー。
ふみちまきん しみそーらんぐとぅ、
かーぎなーりー あっちみそーりよー。
（毎日、暑いですねえ。
夏負けなどされないように、
日陰を歩いてくださいね。）

ちゃーびらさい。ぅんむぐわー
むっち ちゃーびたん。
（ごめんください。芋を
持ってきました。）
ぅんぶさたらやー。
うちんかい いっち ゆくてぃ いけー。
（重たかったでしょう。
中に入って休んでいきなさい。）
あんし みーどぅーさるやー。
やーにんじょー かなとーみ？
（ずいぶん久しぶりだね。
家族は元気にしている？）
うー、んーな
かなとーいびーんどー。
（はい、みんな元気ですよ。）

〈私の家族・親せき〉わったー　やーにんじゅ・うぇーか

またふぁーふじ（そう祖父母）

ひいおじいさん

- またふぁーふじ
- またぬきがふぁーふじ
- うふーたんめー
- うふーおじー

みーとぅんだ
（夫婦）

ひいおばあさん

- またぬなぐふぁーふじ
- うふーうんめー
- うふうんめー
- うふーおばー

ふぁーふじ（祖父母）

おじいさん

- うすめー
- ぅんめー
- たんめー
- おじー

おばあさん

- ぱーぱー
- はーめー
- ぱっぱー
- ぅんめー
- おばー

うや（親）

おとうさん

- ちゃーちゃー
- すー
- ちゃっちゃー
- たーりー
- おとー

おかあさん

- あんまー
- おかー

っくわ（子）

年上　しーじゃ

ちょーでー（きょうだい）

年下　うっとぅ

にいさん	ねえさん	わたし	いもうと	おとうと
あっぴー あふぃー やっちー やっちーめー やちめー にーにー	あばー あわー ぅんみー うんみー ねーねー	わん	うっとぅ ぬなぐうっとぅ	うっとぅ ぬきがうっとぅ

いろんな言い方があるんだね！

おじさん・おばさん・いとこ

おじさん
をうじゃさー
おばさん
をうばまー

おじいさん

おばあさん

親のきょうだい

年長のおじさん
うふーすー
うふちゃーちゃー
うふおとー

年長のおばさん
うふあんまー
うふんまー
うふわんま
おほんまー

おとうさん（親）

年下のおじさん
をうんちゅー
をうんつー
をうんちゅーぐゎー

年下のおばさん
ばーちー
ばーばー
ばーちーぐゎー

おい・めい
みーっくゎ

おい・めい
みーっくゎ

いとこ **いちく**

わたし

いとこ **いちく**

うやふぁーふじ（先祖）、**っくゎうんまが**（子孫）、**うんまが**（孫）、
ひいうんまが・またうんまが（ひ孫）、**しちうんまが・ひちうんまが**（やしゃご）、
でぃぬ くとぅばん あんどー。（という言葉もあるよ。）

「わたしたち」のしまくとぅば

「**わったー**（私たち）」というしまくとぅばは、村内で広く使われているけど、ちがった言い方をするところもあるよ。「**あがたー**」（波平・長浜）、「**あぎたー**」（座喜味・渡慶次）、「**いがたー**」（喜名・儀間・瀬名波・長浜）、「**いぎたー**」（高志保・渡慶次・儀間）など。「**みち ひだてぃてぃ くとぅば かわいん**（道をへだてると言葉も変わる）」と言われていたように、地域ごとにちがいがあったよ。地域のことをよく知っている方に聞いてみてね。

〈私の身体〉わん どぅーてー

頭 ：**ちぶる、ちゅぶる**

頭 のてっぺん：**ちじ**

額 ：**ひちぇー**
めーびちぇー
めーびちゃい

耳：**みみ**
みーみ

鼻：**はな**

口：**くち**
くちびる：**くちしば**
くちびる
上くちびる：**うわーしば**
下くちびる：**ひちゃしば**
しちゃしば

歯：**はー、は**（喜名）
ふわー（座喜味）
前歯：**めーば**
おく歯：**うーしばー**
犬歯：**ちーば**

かみ：**からじ**

まゆ：**みーまゆ**
まゆ

目：**みー**

顔：**ちら、かう**

ほお：**ふー**
ふーじら
ふーたい

あご：**かくじ**
下あご：**うとぅがく**
うとぅげー

のど：**ぬーりー**
ぬーでぃー

舌：**しば**

首：**くび**

頭・目などに関するしまくとぅば

頭　**きーびすー**（かみの毛のうすい人）／**たーちまちゅー・たーちまちゃー**（つむじが二つある人）／**がっぱい**（額や後頭部がとがっていること）／**たっぺー**（後頭部が平たい人）

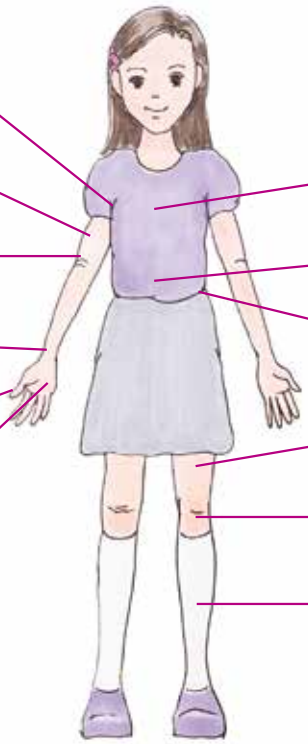
目　**みんたま**（目玉）／**みんたまー**（目の大きい人）／**みーぬしん**（ひとみ）／**みーぬちび**（目じり）／**しるみー**（白目）／**みーぐるぐる**（目をキョロキョロさせること）／**みーくふわやー**（おめざまし。めざましに食べるおかしなど）／**みーぐすい**（目薬。目の保養に美しいものを見ること）／**みーちらちら**（目がチカチカするさま）

耳　**みみたい**（耳たぶ）／**みみぐすい**（耳薬。いい音楽や話などを聞くこと）／**みみがに・みみかざい**（耳かざり）

鼻　**はなぎた・はなしじ**（鼻筋）／**はな ひーん**（くしゃみをする）／**はな ふらちゅん**（いびきをかく）

口　**くち かなゆん**（口ごたえをする）／**くちぐし**（くちぐせ）／**やなぐち**（悪口。乱暴な言葉）／**くちべーさん**（早口）／**くち ゆしじゅん**（口をゆすぐ。うがいする）

めー（前）



わき：わーち

二のうで：けんな
ういーうでぃ

うで：うでぃ

手首：てぃーくびぃ

手：てぃー

手のひら：てぃーぬひら
てぃーわたー
てぃーぬなー

胸：んに、んーに（座喜味）

お腹：わた

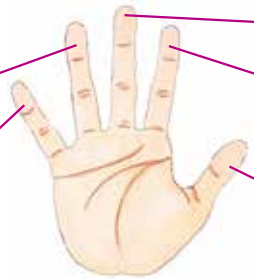
こしまわり：がまく

もも：とぅむ、むむ、むーむ

ひざ：ちんし

すね：しに

いーび（指）



薬指：なりいーび
くすいいーび

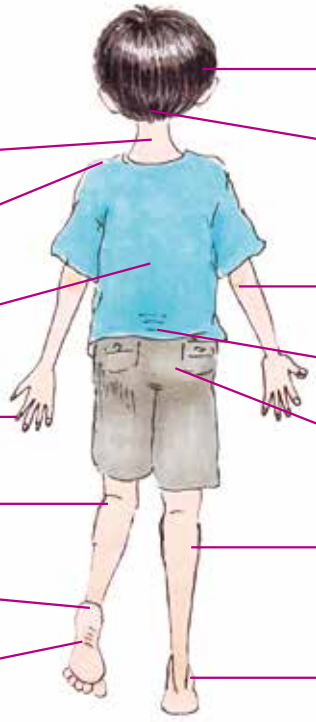
小指：いーびぐゎー
っくゎいーび
ぐないーびぐゎー

中指：なかいーび

人さし指：っちゅさしいーび
さしいーび

親指：うふいーび、まぎいーび
うやいーび

くし（後ろ）



うなじ：かじ、かじがー

かた：かたげー、かた

背中：ながに

つめ：ちみ

ふくらはぎ：くんだ

かかと：あどぅ

足の裏：ひさぬわた

頭：ちぶる、ちゅぶる

ぼんのくぼ：うしぬくぶー
うしるくぶー

ひじ：ひじげー

こし：くし

おしり：ちび

足：ひさ、ふぃさ（座喜味）
ぴさ（宇座）

くるぶし：ひさぐーふ

〈赤ちゃんが生まれた〉 ぼーじゃーぬ　ぅんまりたん

沖縄には「**っくゎや　たから**（子は宝）」という言葉があります。昔は病院やお医者さんも少なかったので、子どもが健康に育っていくのは大変でした。母親や祖母たちは、子どもが生まれると**ヒヌカン**（火の神）と**トートーメー**（仏だん）に報告をし、家族の健康を祈ります。また、親せきや地域の人たちにも協力してもらいながら大事に子どもを育てていました。今ではなくなった風習や儀礼もありますが、成長の節目にはお祝いをして、子どもたちの幸せを願う心は昔も今も変わりません。生まれてから十三祝いまでの儀礼をたどりながら、しまくとぅばを紹介します。

うーとーとぅ　ひぬかんがなしー、
うふゐなぐぬ　ぅんまりとーいびーん。
泰期なー　ちきやびたん。
（ああ尊い火の神様、大女（男の子）が生まれました。泰期という名前を付けました。）

がんじゅーさ　ぅんまりてぃちとぅらち、
にふぇーどー。
（元気に生まれてきてくれて、ありがとう。）

ゆー　ちばたんやー。
（よくがんばったね。）

赤ちゃんを表すしまくとぅば

赤ちゃんのことを「**ぼーじゃー**」「**ぼーぼー**」「**あかんぐゎ**」といい、「**ぼーじゃー　もーきたん**（赤ちゃんをもうけた）」というよ。昔は、女の子の方が男の子より強いと考えられていて、赤ちゃんをねらう**マジムン**（まもの）から守るために、男の子が生まれると「**うふゐなぐ**（大女）」が生まれたといったんだ。これは、「耳切り坊主」の歌で有名な「黒金座主と北谷王子」の話があって、耳切り坊主に子どもをとられないよう、男女を逆に報告したのが始まりなんだって。

カリフス（へそのお）

「**からたがんじゅーし、そーいらー　なりよー**（健康で、賢い子になりなさい）」といって、大切にしまっておく。

ナージキー（命名式）

名前を付ける儀式のこと。昔は**ワラビナー**（童名）を付けたそうだ。

ハチアッチー（初歩き）

母親が赤ちゃんを連れて初めて実家に行くこと。ごちそうを作って行って、仏だんに報告する。

むぬあかせー
（なぞなぞ）

くーじーねー　くーじゅる　うっさ　たかく　あがいしぇー　ぬー　やが？
（こげばこぐほど高くあがるものってなあに？）

（こたえ：うんだーきー）

〈出産祝い〉っくゎなしすーじ・ぼーじゃーすーじ・まんさんゆーえー

子どもが生まれると親せきを招いてお祝いをします。そのお祝いを**ックヮナシスージ**（出産祝い）、または**ボージャースージ**（赤ちゃん祝い）、**マンサンユーエー**（満産祝い）といいます。

出産祝いのごちそう

アワウンバギー（粟産飯）と**タームジ**の汁（田芋の茎、豆腐、豚肉のみそ仕立て）、**チャワキ**（お茶うけ）として肉、天ぷら、豆腐など。**フシカブズネー**（切り干し大根のいため物）。田芋は子芋が増えることから、子孫が栄える縁起のよい食べ物といわれている。

うーとーとぅ　うやふじがなしー、
うふゐなぐぬ　ぅんまりとーいびーん。
ちゅーや　まんさんすーじ　やいびーん。
ぅんばぎーん　うさぎてーびーくとぅ
うきとぅいじゅらさ　うたびみそーり。
（ああ尊いご先祖様、大女（男の子）が生まれました。
今日は出産祝いです。
産飯もお供えしておりますので、
どうぞお受け取りください。）

うじらーさんやー。
（かわいいねえ。）

あんし おとーんかい にちょーる。
（とってもお父さんに似ているね。）

まーすでーどー。
（祝儀だよ。）

マースデー（塩代）

出産祝いのときにあげる祝儀のこと。もともとは、ばしょうの葉などに塩を包んであげたことから「**マースデー**」と呼ばれていたんだって。塩で赤ちゃんをけがれから守るという意味もあったそうだよ。現在では、塩のかわりにお金やプレゼントをあげるよ。

むぬあかせー（なぞなぞ）

とぅらっとーていん、んな　わらとーんどー。ぬーんちが？
（とられているのに、みんな笑っているよ。どうして？）

答え：そうこ

〈成長する〉ふどぅ うぃーん

「**あかんぐゎや ななしがた かわいん**（赤ん坊は七変化する）」という言葉のとおり、子どもの成長は早いものです。
「はえば立て、立てば歩めの親心」といわれるように、親は我が子が日々成長していくのを楽しみにしています。

ゆー にんとーん
（よくねている）

うんぶく なてぃ ちょーん
（重くなってきた）

くび むっちょーん
（首がすわっている）

うっさ っし てぃーひさ ぱたぱたー そーん
（喜んで手足を ぱたぱたさせている）

まんぼーやー っし あしどーん
（腹ばいになって遊んでいる）

うっけーりーん
（寝返りする）

かちみーる ちからぬ ちゅーさん
（つかむ力が強い）

0〜3か月	4〜6か月
7〜9か月	10〜12か月

ほーやーほーやー っし、どぅーちゅいあしびん ないん
（はいはいして、ひとりあそびもできる）

たっちゃん たっちゃん
（立った 立った）

はーぬ みーてぃちょーん
（歯が生えてきた）

あっちはじまい
（歩き始め）

むぬかみはじみ（食べ始め）
ククヌカン、ククヌカメーといって、
昔は9か月目から離乳食を始め、
ゆでてほしたたこをしゃぶらせた。

ひさ みーとーん
（足が生えている＝歩いている）

むぬあかせー（なぞなぞ）	**わじーねー ちびから はーい うんじゃする むしぇー ぬー やが?** （おこるとお尻から針を出す虫はなあに?） こたえ：**はちゃー**（はち）

〈満1歳の誕生日祝い〉 たんかーすーじ・たんかーゆーえー

満1歳の誕生日には、赤飯や**クヮッチー**（ごちそう）を作って、親兄弟や親せきを招いてお祝いをします。招かれた客は、お祝いに着物やお金、食べ物などを持ってきます。赤ちゃんの前にご飯やそろばん、筆などを並べて、どれを先に取るかで、その子の将来を占う儀式もします。どれを取っても、みんな大喜びです。

占いに使う品物は、**ハサン**（はさみ）、**スルバン**（そろばん）、**シジリ**（すずり）、**フディ**（筆）、**メー**（ご飯）、**ジン**（お金）、**スムチ**（書物・本）、**チョーミン**（帳面・ノート）など。はさみを選ぶと裁ほう上手になる、そろばんを選ぶと商売上手、お金を選ぶと金持ち、ご飯を選ぶと食べ物に困らない、筆・すずり・本・帳面を選ぶと**ディキヤー**（優秀な子）になるといわれたよ。

字の出生祝い

字の出生祝いは、**ソーレーアラタミ**（生来改め）、**ボージャースージ**（出産祝い）などといって、その1年間に生まれた子どもと母親を字の公民館に招いて、みんなで祝福します。現在でも多くの字で行われています。

1984年度 渡慶次区合同出生祝い

2017年度 瀬名波区合同出生祝い

むぬあかせー（なぞなぞ）

どぅーやしく いじかさりーしが、いかなしん むちあぎららんしぇー ぬー やが？

（簡単に動かせるけど、絶対に持ち上げられないものはなあに？）

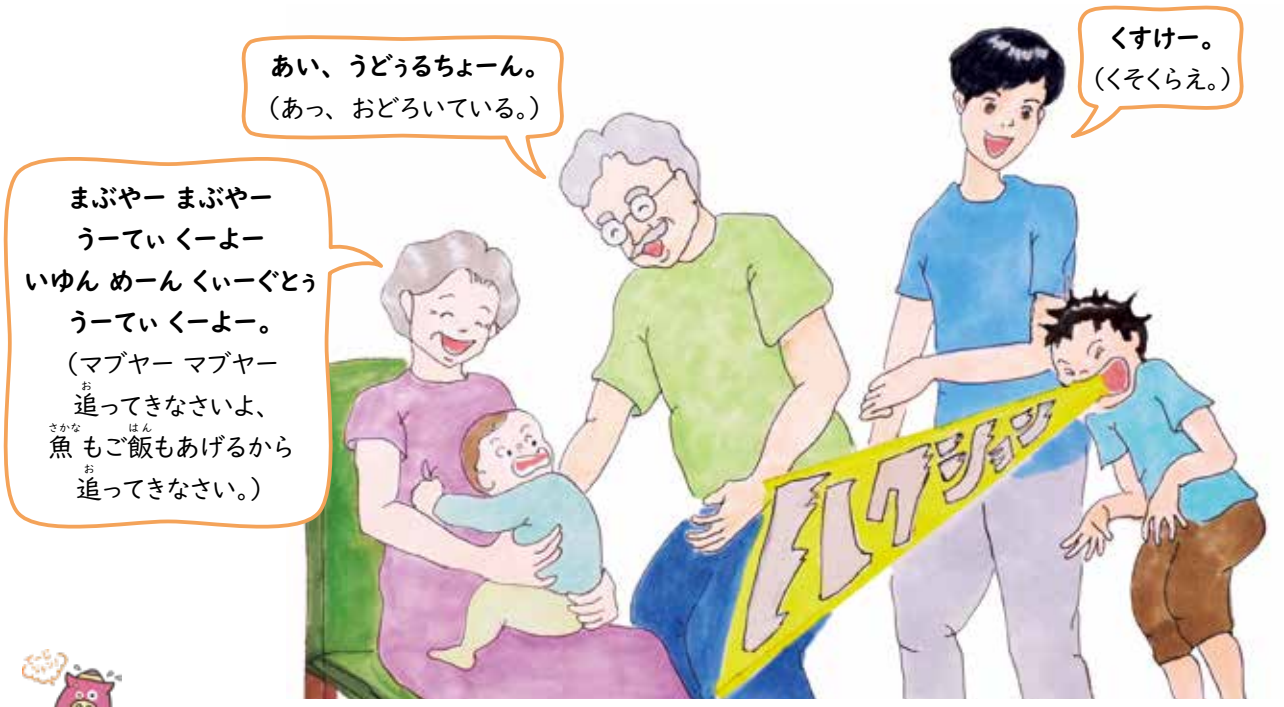
（答）ーゃ4ーハ4：えたこ

〈まよけ〉 むんぬきむん

赤ちゃんは**マジムン**（まもの・おばけ）から命をねらわれやすいと考えられていて、**サン**（ススキなどの草を曲げて結んだもの）や**ハサン**（はさみ）などを置いてまよけにします。また、赤ちゃんを連れて外出するときや、びっくりしたり、くしゃみをしたときなどに唱えるまじないの言葉もあります。

ハサミやサンは危なくないように、まくらもとの布団の下に入れて置く。

あんまー くーとぅー、
たーがん んーだんどー。
あんまー ちゅいがる
んーじゅんどー。
たーん んーじゅなよー。
（お母さんのほかには、だれも見ないよ。
お母さん一人が見るんだよ。
だれも見るなよ。）


あい、うどぅるちょーん。
（あっ、おどろいている。）
くすけー。
（くそくらえ。）
まぶやー まぶやー
うーてぃ くーよー
いゆん めーん くぃーぐとぅ
うーてぃ くーよー。
（マブヤー マブヤー
追ってきなさいよ、
魚もご飯もあげるから
追ってきなさい。）

まじないのしまくとぅば

びっくりしたときや転んだときは**マブイ**（たましい）が落ちてしまうといって、「**マブヤー マブヤー ウーティ クーヨー**（マブヤー マブヤー追ってきなさい）」といって**マブイグミ**（たましいをこめる）をするよ。くしゃみをしたときは「**クスケー**（くそくらえ）」というと、**マジムン**はにげていく。夜出かけるときは、赤ちゃんのまゆとまゆの間に**ナービヌヒング**（なべのすす）やツバをつけてまよけにするんだ。**マース**（塩）や**サン**（ススキを結んだもの）、**ハサン**（はさみ）のほかに、**マブイウシー**といって着物の後ろえりの下に赤い布や糸で印をつけたのもまよけになるんだよ。

マブイウシー・マブヤーヲウー

むぬあかせー（なぞなぞ）	**くちから うんじてぃ ちゅーる 「くび」 でぃしぇー ぬー やが？** （口から出てくる「くび」ってなあに？）

こたえ：あくび

子守歌とあやし歌

っくわむやー さがなー あしだんどー。
ぼーじゃーが なちーねー、
まじゅん なちゅたんどー。
（子守しながら遊んだよ。
赤ちゃんが泣くと、いっしょに泣いたよ。）

❶ わーが ひかちゃる

わーが ひかちゃる 男（女）ぼーじゃーぐゎーや
へーく ふる ういーてぃ あしじゃ さば くり
じんがらやーぬ むーく（ゆみ）なりよー

「私が 子守する 男（女）の赤ん坊は
早く 大きくなって げたや ぞうりがはけるよう
金持ちの むこ（よめ）になれよ」と、
赤ん坊をいとおしんで歌っている。

❷ へるへるへる 夕さんでぃ畑かい

へるへるへる ゆさんでぃばるかい いーくなよ
みみちりぼーじが たーっちょんど
ぬーとぅ ぬーとぅ むっちょーたが
かたなとぅ ほーちゃとぅ むっちょーたん

「よしよしよし 夕方は 畑に 行くなよ 耳切り坊主が 立っているよ
何と 何を 持っていたか 刀と 包丁を 持っていたよ」と、
夕方は畑に行かないようにと歌っている。

❸ いっしんぐー

いっしんぐー からだいだい
やんばらーが やんばらーが ちゅーんどー
いらなん かたなん とぅいかじみり
しーぶんかい まーぐんかい

「いっしんぐー からだいだい 山原船が 山原船が くるよ
かまも 刀も かくしなさい シーブ（目のあらいあみぶくろ）に
マーグ（下着入れのわらかご）に」

［遊び方］親と子どもが向かい合って両手をとり、
歌いながら、引き寄せたり離したりして遊ぶ。

むぬあかせー（なぞなぞ）

ゆでぃん ゆでぃん、いれーらんしぇー ぬー やが？
（よんでもよんでも、返事しないものはなあに？）

（本）ちゅぬ：こたえ

❹ いーゆぬみー　たーくぬみー

いーゆぬみーん　たーくぬみーん
ᵍうーばーらーん　みじくぶさーん
わーちぬしちゃん　くちゅくちゅくちゅくちゅ

「魚の目も　たこの目も
ᵍウーバーラー（ばしょうをつむいだ糸を入れるかご）も
ミジクブサー（女性の下着を洗う容器）も　わきの下も
こちょこちょこちょこちょ」

［遊び方］歌いながら、子どもの指先から手のひらをさしていき、最後にわきの下を「クチュクチュクチュクチュ」とくすぐってあやす。

❶〜❹の歌は、『ゆんたんざむんがたい（その5）』（2018年読谷村教育委員会発行）にCDが付いているから聞いてみてね。

❺ うゎーぐゎー　こーいんそーり

うゎーぐゎー　こーいんそーり
ちゃっさ　さびーが
にかんぐひゃーく
やしみてぃ　うみそーり

「子豚を　買ってください　いくら　ですか
二貫五百　安めて　売ってください」

［遊び方］歌いながら、子どもを背中に横がかえにして、ゆすったりして遊ばせる。

かたどーどー（かたぐるま）

かたぐるまのことを**カタドードー**（座喜味・波平）、**カタダーカー**（座喜味・大湾）、**トゥンジャーマートゥー**（瀬名波）、**カタゥンマ**（比謝矼）などともいった。おもに父親や祖父が、子どもをかたぐるましながら、小走りしたりして遊ばせる。

子育てを手伝ってくれた人たち

チーアン（乳母）
お母さんの母乳があまり出ないときは、乳のよく出る人が、お母さんの代わりに赤ちゃんにおっぱいを分けてくれたよ。

ムヤー（子守）・**ムヤーナー**（守姉）
おもに10歳から13歳の女の子の**ムヤー**（子守）が多かったけど、7、8歳から**ムヤー**をする子もいたんだ。手間賃として夕食を食べさせたり、正月前に着物を買ってあげたりしたんだって。**ムヤー**と**ムイングヮ**（子守される子ども）は親兄弟のように深いつきあいで、大人になっても関係は続いたそうだよ。

むぬあかせー（なぞなぞ）

まぎく　ないしんでー　くーく　ないしぇー　ぬー　やが?
（大きくなるほど小さくなるものはなあに?）

こたえ：**ちん**（着物・服）

〈小学1年生の入学祝い〉ふでぃかちみすーじ

小学校1年生になるときには、**フディカチミスージ、フリカチミスージ**（筆をつかむ祝い）、**ウンジースージ**（出る祝い）、**アガイスージ**（上がる祝い）などといって、親せきを招待して盛大に入学祝いをします。

アガイスージ（進級祝い）

「アガイスージー」「アガイスーブー」といって、進級祝いも行ったんだ。昔は、家の手伝いが優先で、学校に行けなくて進級できない人もたくさんいたので、進級できるととても喜んだそうだよ。

昔のかばん

今では、小学1年生になると、ぴかぴかのランドセルがもらえるけど、昔は、教科書などを**ウチュクイ**（ふろしき）に包んでこしに巻いたり、かたにかけたりしたんだって。

むぬあかせー（なぞなぞ）

みー あきーねー みーらんしが、みー くーいねー みーしぇー ぬー やが?

（目を開けると見えないのに、目を閉じると見えるものはなあに?）

（答）**せい**：ろうそく

〈乳歯が生えかわるころ〉 はーぬ　みーけーゆん　じぶん

チークェーバー（乳歯）がぬけたとき、上の歯は床下に、下の歯は屋根に投げました。これは歯がまっすぐに生えるようにとのまじないです。

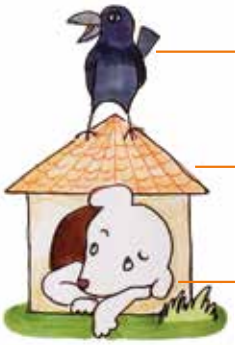
歯がぬけて
ハーモー（歯ぬけ）になっちゃった

ぬけた歯を投げるときのとなえごと

☞ **いんぐゎー　はーとぅ　わん　はーとぅ　みーすーぶー**
（犬の歯と私の歯と生え勝負）

☞ **がらさー　はーとぅ　わん　はーとぅ　みーすーぶー**
（カラスの歯と私の歯と生え勝負）

☞ **ちゅらはーぐゎーから　みーらしんそーりよー**
（きれいな歯が生えますように）



がらさー
（カラス）

いんぐゎーやー
（犬小屋）

いん
（犬）

学事しょうれい会

子どもたちが勉強できるように、地域で見守りはげます目的で始められたのが「学事しょうれい会」だよ。明治時代に始まり、沖縄のなかでも読谷はとくに盛んで、今でも多くの字で続けられているよ。余興を行ったり、えんぴつやノート、図書券などが配られて、子どもたちの学ぶ意欲を支えているんだよ。

長田地区の学事しょうれい会　1968年　公民館建設の頃、公民館前で

むぬあかせー
（なぞなぞ）

どぅーぬ　むん　やしが、どぅーやか　ゆすぬ　っちゅぬ　うほーく　ちかいしぇー　ぬー　やが?
（自分のものだけど、自分よりよその人が多く使うのはなあに?）　（答え）ぅーの：そこ

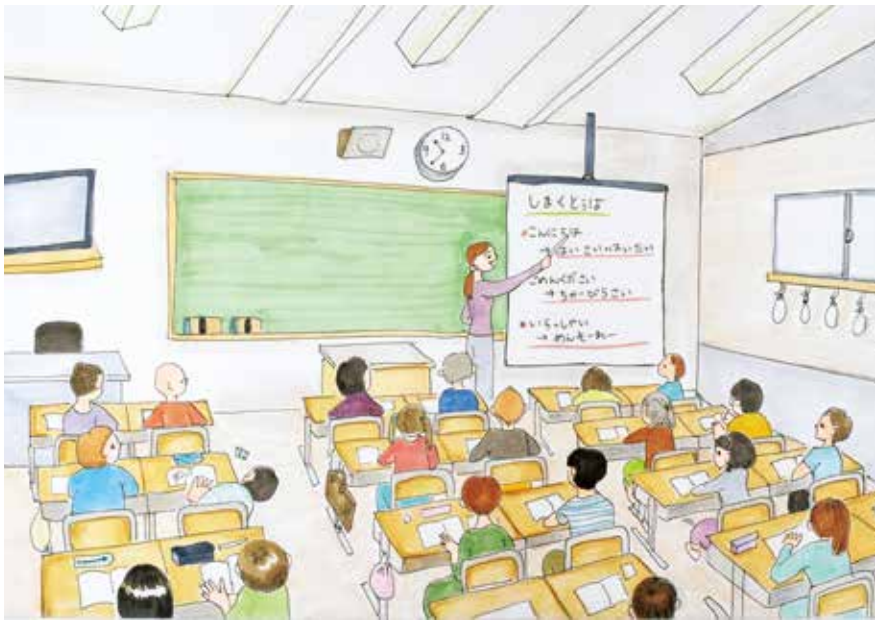
〈学校〉がっこー

渡慶次小学校（1950年代後半頃）

読谷山小学校（1911年から1943年・座喜味）

古堅尋常高等小学校（1938年頃・古堅）

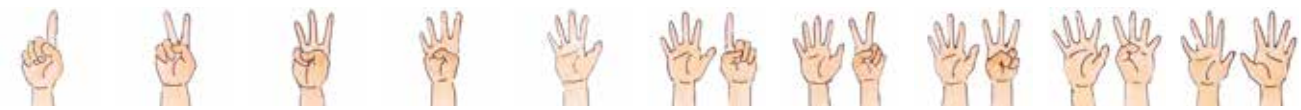
んかしぇー、ほうげん　ちかいる
しーとぅんかい「ほうげんふだ」
かきたんでぃる　くとぅん
あたんどー。
（昔は、方言を使う
生徒に「方言札」を
かけたということもあったよ。）



しまくとぅばの日

琉球王国が明治時代に沖縄県として日本にくみいれられてから、学校で共通語による授業がはじまったよ。ふだんの生活でも共通語が使えないと困ることが出てきた。学校では、しまくとぅばを使うと罰せられるようないきすぎた指導もあったんだ。しまくとぅばは日本語と共通の言語から分かれた姉妹のような言葉。生活の知恵や経験がつまっている形のない宝物。沖縄県では2006年から9月18日を「しまくとぅばの日」として、その継承にとりくんでいるよ。

数の数え方



てぃーち（ひとつ）　たーち（ふたつ）　みーち（みっつ）　ゆーち（よっつ）　いちち（いつつ）　むーち（むっつ）　ななち（ななつ）　やーち（やっつ）　くくぬち（ここのつ）　とぅー（とお）

むぬあかせー（なぞなぞ）

くるま　あっかちょーいに、まがいかどぅんじ　かんなじ　うとぅすしぇー　ぬー　やが？
（車を運転しているときに、曲がりかどで必ず落とすのはなあに？）

こたえ：そろばん

給食

弁当から給食へ

むかし

ぅんむ（芋）

あんだんすー（油みそ）

ミルクだけの給食
（1955年頃）

パン給食開始、おかずは持参
（1960年頃）

あんし まーさぎさる！
んかしぇー、ぅんむどぅ むっち ぅんじゃんどー。
（とってもおいしそうだね！
昔は、芋を持って
行ったんだよ。）

完全給食開始
（渡慶次小学校1966年）

＊1975年頃より、
現在のご飯給食開始

給食に出てくる読谷村の食材

しぶい・すぶい（冬瓜）／**ぱぱやー**（パパイヤ）／**そーがー**（しょうが）／**ぅんむ**（芋）／**びら**（青ねぎ）／**ちりびら**（にら）／小松菜／**はんだま**（水前寺菜）／**ちでーくに**（人参）／**しまなー・とーなばー**（からし菜）／**ふーりんなー**（ほうれん草）／**やまぅんむ・やんもー**（やまいも）

その他の食材のしまくとぅば

おーふわ（青菜・葉野菜）／**ごーやー**（にがうり）／**たまなー**（キャベツ）／**なーべーらー**（へちま）／**でーくに**（大根）／**たーぅんむ**（田芋）／**なんくわー**（かぼちゃ）／**なーしび**（なすび）／**まーみな**（もやし）／**んじゃな・んじゃなばー**（にがな）／**くみ**（米）／**むじ**（麦）／**たまとー**（トマト）／**いゆ**（魚）／**しし**（肉）／**うわーしし**（豚肉）／**うしぬしし**（牛肉）／**とぅいぬしし**（鶏肉）／**くーが**（卵）／**たく**（たこ）／**ばさない**（バナナ）／**ばんしるー・べんするー・ばんそーり**（ばんじろう・グヮバ）／**きんぶ・くにぶ・くがにー・かーぶちー・しーくわーさー**（みかん）／**しーこーうい**（すいか）

現在の学校給食

上は牛乳、ウンムニーとパパイヤイリチー。下はセーイカの味噌汁とムジメー（麦ご飯）。読谷村では、毎月16日のイモの日の給食に、芋料理が出てきます。

沖縄料理の調理法

ちゃんぷるー
いろんなものをまぜ合わせていためたもの。ごーやーちゃんぷるー。

いりちー・いりちゃー
いためもの。くーぶいりちー。

ぅんぶしー・ぅんぶさー
むし煮、煮込み。しぶいぅんぶしー。なーべーらーぅんぶさー。

あぎむん
揚げもの。天ぷら。さーたーあんだぎー。

ずーねー
和え物。んじゃなばーずーねー。

くーぶいりちー（こんぶいため）

早口言葉

あぬ ふし てぃーち わん てぃーち あぬ ふし たーち わん たーち あぬ ふし みーち わん みーち
（あの星一つ 私一つ あの星二つ 私二つ あの星三つ 私三つ）

遠足

地域の呼び方を、しまくとぅばと共通語で書いてあるよ。くらべてみてね。

❶ 残波岬

歌に詠まれる景勝地

❷ カタノー馬場

ウンマハラセー（競馬）が行われた所で、すもう大会や出店などもあって、楽しみだった。

❸ 座喜味城跡

1420年頃、護佐丸によって造られたグスク（城）。

⓫ 都屋漁港

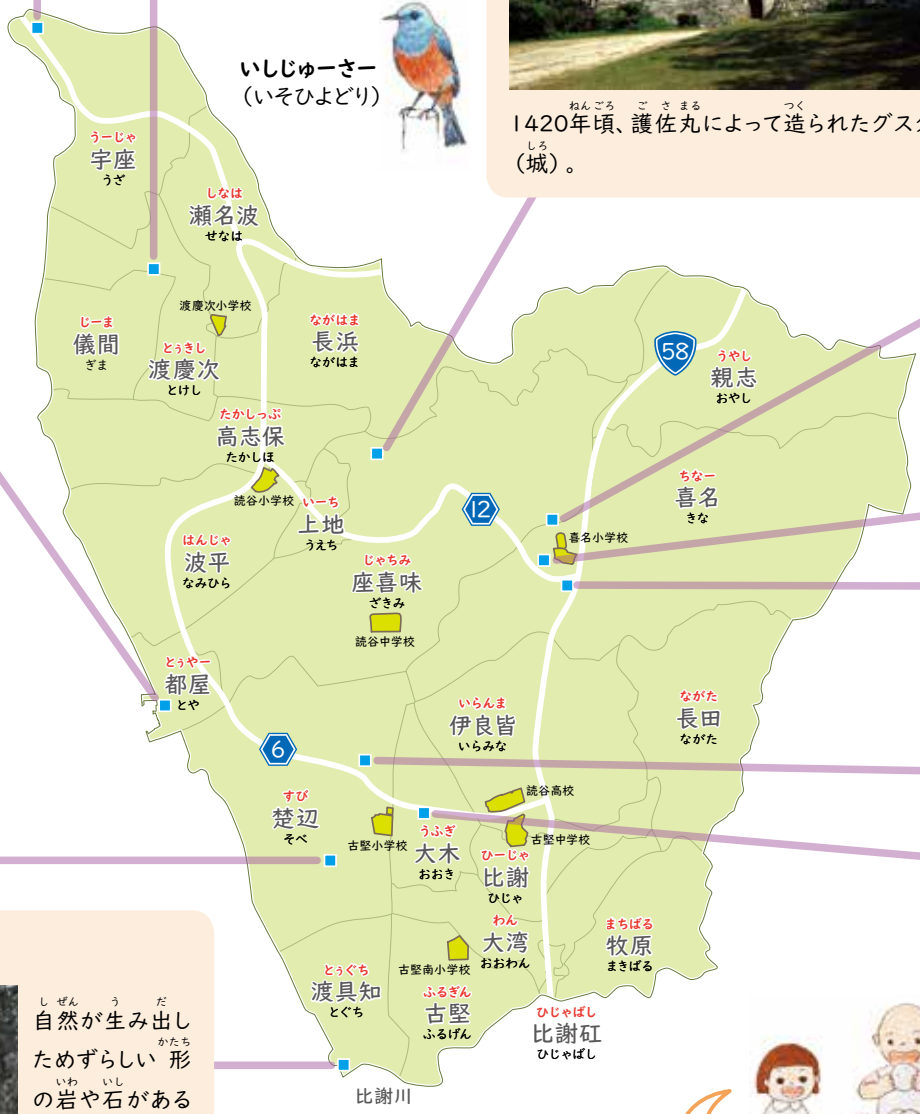
昔から漁業の中心だった。港内には直売店や食堂があり、定置あみ漁体験なども楽しめる。

❿ 楚辺クラガー

犬が見つけたといわれるわき水で、暗いどうくつにあることから、暗川とよばれる。水は農業用水として利用されている。

❾ トゥマイグシク

自然が生み出しためずらしい形の岩や石がある すばらしい景観が人気。



かーさびんとー　まーさんやー。
（ばしょうの葉に包んだ弁当はおいしいね。）

早口言葉

たかたばくぶん　たーち　かさびてぃ　たー　たかたばくぶん
（高たばこ盆　二つ重ねて　二高たばこ盆）

んかしぇー　えんそくし
やまたいもーかい　うんじゃんやー。
（昔は遠足でヤマタイモーへ行ったね。）

んーな　まじゅん　びんとー　むっち
いちゅしが　いっぺー　うっさたんどー。
（みんないっしょに弁当持って
行くのがうれしかったよ。）

いっぺー　ながみぬ　ゆたさたんやー。
（とってもながめが良かったね。）

めーとぅ　あんだんすー　むっち
ちゅーしん　をうたんどー。
（ご飯と油みそを持ってくる子もいたよ。）

4 ヤマタイモー

海がよく見える小高い場所で、昔は船送り（煙をたいて船を見送ること）が行われていた。ながめがすばらしく遠足で人気だったが、戦後はしきならされている。

5 喜名観音堂

健康で子孫が栄えるようにと祈る。旧暦9月18日は村主催の観音堂祭、翌19日は喜名区の観音堂拝みをする。

6 喜名番所

昔の役場跡

すーてぃーちゃー
（そてつ）

7 赤犬子宮（アカヌクー）

歌と三線、五穀豊じょうの神、赤犬子がまつられている。

はーべーるー
（ちょう）

8 徳武佐

健康、やくよけ、福を招いて繁栄を祈る。子宝の拝所でもある。旧暦9月18日の十三夜には徳武佐祭が行われる。

早口言葉

うぐしくぬ　うなーや　うなんどぅるさぬ　ふーるぬ　くしねー　たむのー　まじりん　まじまびらんたん
（お城のお庭はすべりやすくて豚小屋の後ろにたきぎを積み上げようにも積み上げられませんでした）

〈いっしょに遊ぼう〉 まじゅん　あしばな

ちなとぅんじぇー（なわとび）

ひさ かきらんきよー。
（足をひっかけないでよ。）

よーい、いちゅんどー。
（さあ、いくよう。）

まぎーく まーさやー。
（大きく回そうねえ。）

かちみらやー。
（つかまえるよう。）

へーくなー いれー。
（早く入りなさい。）

まーみーぐぁー
（おにごっこ）

まーかい ひんぎーがやー。
（どこに逃げようかなあ。）

あしぅんま きーびさ きーぅんまー
（竹馬）

ふぇーく ひんぎら。
（早く逃げよう。）

ちゃらちゃらーぐぁー おーしーとー ひとふたとのじゅー
（お手玉）

うーさにかたじきるーっし うに きみらな。
（多い方が勝ちよでおにを決めよう。）

とーるがっくい っし あしば。
（かくれんぼして遊ぼう。）

まーいうっちぇー（まりつき）

てぃーち てぃどぅくん たーち たなばる …
（一つ手登根　二つ棚原…）

いろいろなジャンケン

遊びの中で順番やおにを決めるとき、**ジャンケン**、**ヤーヤイ**、**ウーサニカタジキルー**、**ブーサー**などをしたんだ。**ジャンケン**は現在と同じ。**ヤーヤイ**は、両手を胸の前で交差させる**イシ**（石）、前に伸ばした右手のひじを左手でおさえた**ホーチャー**（包丁）、両手を広げる**ハタキ**（畑）があるよ。**ウーサニカタジキルー**は、手のひらまたは甲を出し合い、多い方が勝ち。**ブーサー**は、親指・人さし指・小指の三本の指を出し合い、親指は人さし指に、人さし指は小指に、小指は親指に勝つよ。

しんりえー・しじりえー
（すべりあい）

松やゆうな、ガジマルの木の枝などをしりにしいてすべったよ。

くーるーみぐらせー
（こままわし）

ゆー まーとーんやー。
（よくまわっているね。）

なーま。
（まあだだよ。）

なーま。
（まあだだよ。）

しまぐーるー
（しまごま）

とーい。
（もういいかい。）

やい、やい。
（えい、えい。）

かっくんごーりー
とーるがっくい
くゎっきんとーるー
（かくれんぼ）

とー やさ。
（もういいよ。）

せんとー・けんとー・
げっとー・ひさげっとー・
かーたー（片足ずもう）

片足とびをしながら二人でぶつかり合う遊び。たおれたり、足をつかんでいる手を離すと負け。上げた足のひざで相手をひざげりすると、**コンマー**といって反則とされたよ。

とー やさ。
（もういいよ。）

やーぬ ていがねー っしから、
ゆー あしだんやー。
（家の手伝いをしてから、よく遊んだね。）

めーなち ゆーばんめーまでぃ
あしどーたんやー。
（毎日、夕飯前まで遊んでいたね。）

おもしろ言葉

とぅーたんやーぬ めーから とぅーたんやー　（トタン家の前から通ったね）

〈おてつだい〉 てぃがねー

みじくまー（水くみ）

かたみーん（担ぐ）
たーぐ（たごおけ）
ぼー（棒）

からびさー
からふぃさー
（はだし）

みじくまーをうーき（水くみおけ）
かみーん（頭にのせる）

わらびぬ しくちぇー まんどーたんどー。
（子どもの仕事はたくさんあったよ。）

はんどぅーがーみぬ みー みじ かやーさんねー、ぬらーりんどー。
（水がめのいっぱい、水をくまないと、しかられるよ。）

っくわむやー
（子守り）

へるへるへる なーくなよー。
（よしよしよし泣くなよ。）

うーふわ（おんぶ）
っくわうふわさーうーび
（おんぶひも）

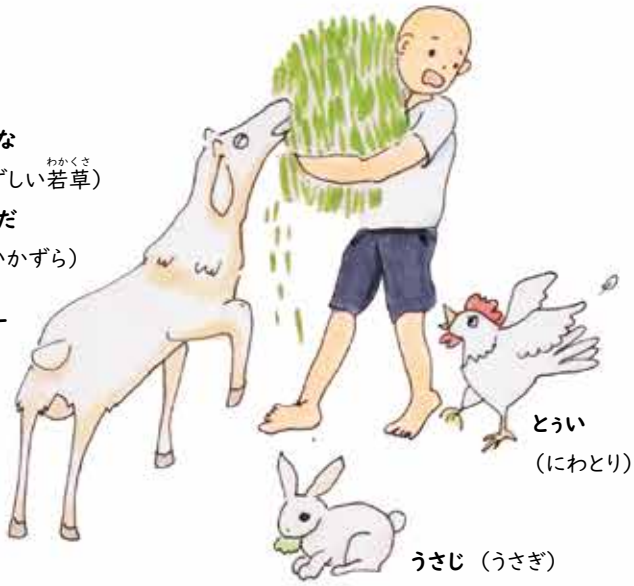
くさかやー
（草刈り）

くばがさ
（くばの葉で作った笠）

いらな（かま）

わかみんな
（みずみずしい若草）
わかかんだ
（若々しいかずら）

ひーじゃー
（やぎ）



とぅい
（にわとり）

うさじ（うさぎ）

はるぬ てぃがねー（畑の手伝い）

ちゃーちゃーが「かんだ おーだーんかい ぬしとーちゅくとぅ、かたみーが くー」でぃ いみせーたん。
（お父さんが「かずらをもっこにのせておくから、担ぎにおいで」っておっしゃっていた。）

おーだー
（もっこ）

おもしろ言葉

とぅいる とぅいる（鳥をとる）

たむんとぅやー
（たきぎとり）

まーちばーん、
きだむぬん
まんどーんやー。
（松葉も、たきぎも
いっぱいあるね。）

をうーん
（おの）

たむんわやー（まきわり）

たむのー、
たむんだなんかい
まじどーちゅさ。
（たきぎは、
たきぎだなに積んでおくよ。）

わいだむん
（割り木、
割ったたきぎ）

まーちばー（松葉）　**きだむん**（たきぎ）
くさかちゃー・くさがちゃー・くしかちゃー（小さい熊手）

ふぃーてーちきやー（火おこし）
うんむにやー（芋炊き）

ひーふちゃー（火吹き竹）
ひなたんぐーしー（たきぎをくべる棒）
しんめーなーびー（大なべ）
かまんた（なべぶた）

すすいかち
（ふきそうじ・ぞうきんがけ）

ランプそーじ
（ほやランプみがき）

すすい
（ぞうきん）

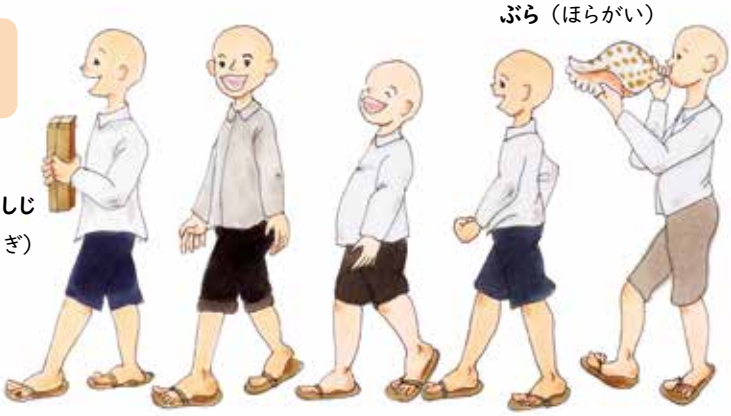
ランプそうじは
2、3日おきにやった。

ふやランプ
（ほやランプ）

ひさくむん
あんぐぇーゐー
（あぐらをかく）

ひよーじん
（火の用心）

ぶら（ほらがい）



ひょうしじ
（ひょうしぎ）

「ヨージントー　ミサイソーロー　ヤーホーホー　ヒーマーチ　ユタシクローイ
（火の用心なさってください。ヤーホーホー 火の始末をよろしくお願いします）」（瀬名波）、
「まりはけっても、ランプ（コンロ）はけるな」（座喜味・宇座）

12、3歳ぐらいの男の子たちが、火の用心の**ユーマーイ**（夜回り）をしたよ。瀬名波では、旧暦の12月1日に**ヨージントー**（用心燈・火の用心）という男子だけの行事があるよ。巡回したあとは、字の始まりの家に集まって、そら豆を煮たものをもらって食べたんだ。

おもしろ言葉　**ひーる　ひーる**（へをひる・おならをする）

〈十三祝い〉じゅーさんゆーえー・じゅーさんすーじ

12年に一度めぐってくる自分の生まれた干支の年を**ウンマリドゥシ**（生まれ年）といって、「生年祝い」をします。これを**トゥシビースージ**、あるいは**トゥシビー**といい、正月初めの干支の日に家の守護神である**ヒヌカン**（火の神）と仏だんに健康祈願をします。昔は女の子は25歳までには結婚していることが多かったので、**ジューサンスージ**（十三祝い）は、生家で行う最初で最後のお祝いということで盛大に祝いました。男の子は15歳になると、子どもの髪型から沖縄式まげを結う**カタカシラスージ**をし、そのときから一人前の大人として公共の労働にも参加しました。現在は、男女一緒に**ジューサンスージ**をしています。

姉の十三祝いと弟たちの七五三祝いを記念して

スージヂン（祝い着）

昔は十三祝いには着物を新調するところが多かったよ。近ごろは、スーツやドレス、和装や琉装などで記念写真を写したり、親せきを招いてお祝いしたりするんだ。また、学校や地域の公民館で合同祝いをするところもあるよ。

いゃーや　ぬーぬ　っちゅが？
（あんたは何年生まれの人か？）

わんねー　さるぬ　っちゅ やさ。
（おれは申年生まれだよ。）

11. **いん**（戌）

12. **ゐー**（亥）

1. **にー**（子）

2. **うし**（丑）

3. **とぅら**（寅）

10. **とぅい**（酉）

十二支のしまくとぅば

4. **うー**（卯）

9. **さる**（申）

8. **ひちじ**（未）

7. **うんま**（午）

6. **みー**（巳）

5. **たち**（辰）

おもしろ言葉　**くんら　くんら**　（ふくらはぎをしばろう）

〈合同生年祝い〉合同とぅしびーすーじ

地域の公民館では、数え 13 歳、25 歳、37 歳、49 歳、61 歳、73 歳、85 歳、ところによっては 97 歳の**カジマヤー**の人たちまでを集めて、合同祝いをするところもあります。

1955 年 未 年・波平区合同生年祝い

1959 年 亥 年・宇座区合同生年祝い

1979 年 未 年・渡具知区合同生年祝い

2017 年酉年・長浜区合同生年祝い
十 三祝いの子どもたちが、「かぎやで風」を踊る

カジマヤー祝い

97 歳の生年祝い。97 歳になると子どもに戻るということで、**カジマヤー**（風車）を持って祝うことから**カジマヤー**祝いというんだよ。旧暦の 9 月 7 日には区をあげて盛大にお祝いするよ。当日は、オープンカーなどで村内をパレードし、道ばたで祝ってくれる人たちにも**カジマヤー**を配るんだよ。

おもしろ言葉　**きーる　きーる**　（木を切る）

〈正月〉ソーグヮチ

ひぬかん（火の神）

あかかびー（赤紙）
かざいかび（かざり紙）

だき（竹）

まーち（松）
きんぶ（みかん）
たん（炭）
くーぶ（こんぶ）
とーなばーぬはな（からしなの花）か、
でーくにぬはな（大根の花）

ちむ（豚の肝）
みみがー（豚の耳皮）

まーす（塩）

わかまーち（若松・門松）は門の両側に立てかけていた

まるちゃじし（まな板の上で切り分ける厚切りの豚肉）

まるちゃ（まな板）

正月のかざり物やごちそうには縁起をかつぐものが使われている

アカカビー（赤紙）・**カザイカビ**（かざり紙）は、赤黄白の3色の色紙。瀬名波では赤は健康、黄は金持ち、白は運が開けるようにといわれているよ。**ダキ**（竹）は、大空にまっすぐのびる。**マーチ**（松）は年中緑ではんしょくする力が強い。みかんは、だいだい（大型のみかん）を代々にかけて子孫が栄えるように。**タン**（炭）は、何年もくちないことから、家庭の繁栄を願う。**クーブ**（こんぶ）は、「よろこぶ」にかけて喜びを表す。**ハナ**（花）は美しく咲き、実（子ども）を結ぶ。**ヒジャイナー**（しめ縄）は、まものが入らないようにというしるし。**チム**（肝）は心の意味。父親が「**チムグクル チュクリヨーヤー**（肝心を作りなさいよ＝よい子になりなさい）」などと言って、子どもたちにあげた。**ミミガー**（耳皮）は、「聞く耳をもてるように」と願ったもの。**マルチャジシ**は、**マルチャ**（まな板）の上でぶ厚く切った豚肉のこと。**トゥシトゥイユーバン**（年取夕飯・大晦日の年越夕飯）として、家族全員そろって食べたよ。肉を切るのは、祖父や父親など、男の役目という所もあったよ。

ゐーりじん・はーくがに（お年玉）

ぐりーまーい・にんとぅーまーい（年始まわり）

おもしろ言葉

あしが ねーん（あるけどない。楚辺では「あしが」は、げたのことなので、「げたがない」の意味になる）

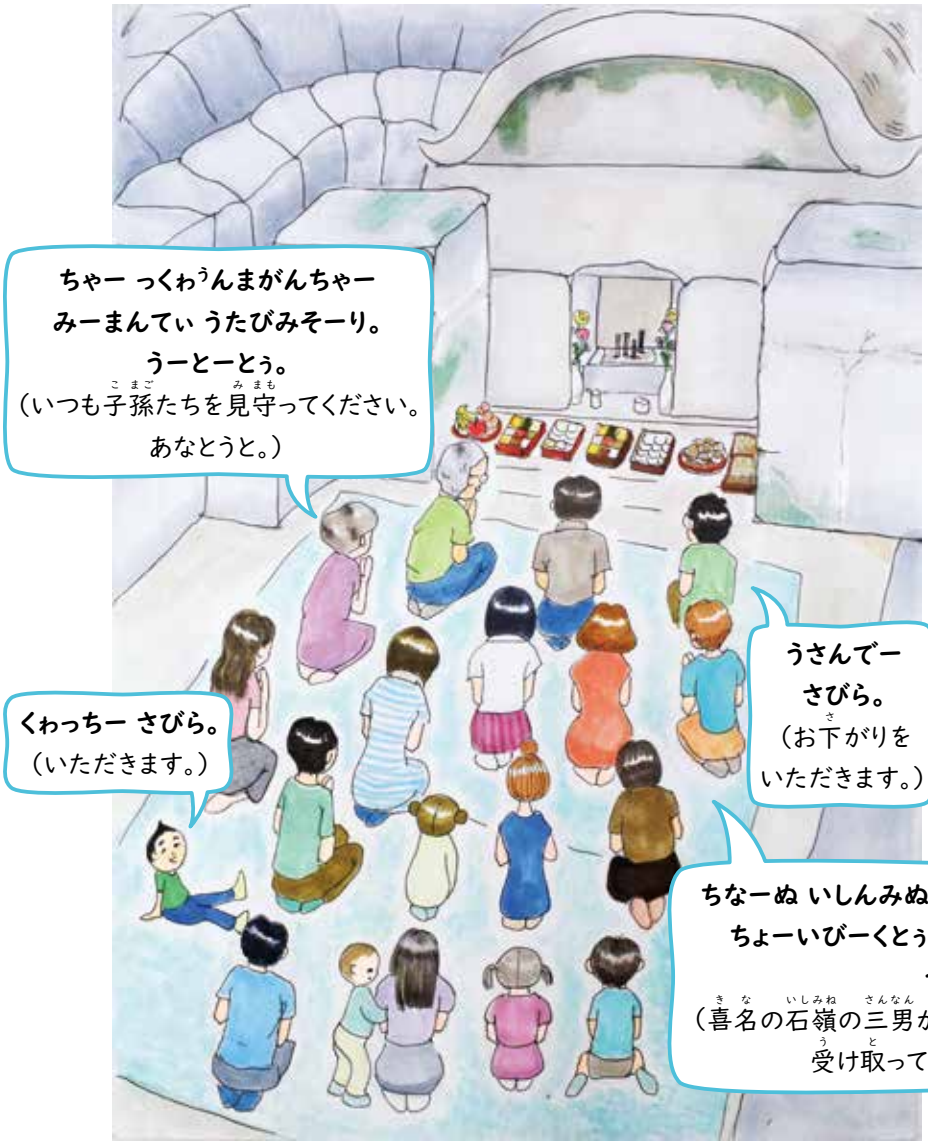
〈清明祭〉シーミー

シーミーは親族がお墓に集まって、ご先祖様を供養する行事です。昔は、宇座、長浜、瀬名波、渡慶次、儀間、波平、楚辺、高志保などでは旧暦の3月3日に行っていましたが、現在は各字とも、清明の季節に入った日曜日に行っています。

墓前に供えられたジューバク（重箱料理）と、果物、飲み物など

ウサンデー（供え物のお下がり）をいただく

ジューバク（重箱料理）は、**ムチ**（もち）二箱と**ウサンミ**（肉やかまぼこなどのごちそう）二箱で、**チュクン**（1セット）という。一箱ずつだと**ハンクン**（半セット）という。



旧暦について

カレンダーを見ると、小さく旧暦と書かれているよ。旧暦は月の満ち欠けをもとにした太陰暦と、1年を24の季節に分けた24節気を組み合わせてできた暦のこと。農家にとって種まきや収かくの時期を知るのに重要なものだよ。**シーミー**や**シチグヮチ**（旧盆）などの年中行事、家族の健康祈願などは今でも旧暦で行うことが多いよ。

おもしろ言葉

うぇーきんちゅぬ きー ぬぎーねー うぇんちゅ ないん（金持ちのキー（毛）が抜けるとネズミになる）

〈旧盆〉シチグヮチ

お盆は、旧暦の７月 13 日から 15 日の間に、あの世から来たご先祖様の霊をお迎えして供養をする行事です。13 日は**ウンケー**（お迎え）、14 日は**ナカヌヒー**（中日）、15 日は**ウークイ**（お送り）といわれています。また、ご先祖の霊を見送るために**エイサー**をします。

旧暦７月７日の**タナバタ**（七夕）には、お墓や仏だんのそうじをして、ご先祖様を迎える準備をするんだよ。

タナバタ（七夕）

はかぬ そーじん しぇーびーくとぅ、しちぐゎちねー、やーんかい めんそーち くぃみそーり。
（墓の掃除もしましたから、お盆には、家においでください。）

しちぐゎち やいびーくとぅ、うんけーさびら。
（旧盆ですので、お迎えいたします。）

ウンケー（お迎え）

ウークイ（お送り）

ウークイのときは、家族そろって「**っくゎうんまが みーまんてぃ うたびみそーり。やーぬん めんそーち くぃみそーりよー**（子孫をお守りください。来年もおいでくださいね）」と祈って、お送りします。

仏だんの供えもの

グーサンヲウージ＝サトウキビ。１本は杖、１本は荷担ぎ棒。**ガンシナ**＝物を頭に乗せて運ぶための輪型の敷物。**ソーローボーチ**（メドハギで作ったほうき）＝あの世の人が足のよごれを落としたり、**ウークイ**のときにイボや悪いところをなでて持って行ってもらう。**ソーローバーシ**＝あの世の人が使うはし。**ミンヌク**＝米に粟などを混ぜたもの、または野菜やサトウキビ、イモなどをきざんだもの。まつる人がいなくてさまよっている霊に持たせるものとして仏だんのかたすみに置いておく。

エイサー

エイサーを踊るのは、ウンケーの日からウークイの翌日の 16 日まで、字によってちがうよ。自分の字は何日にやるか確かめてみてね。

高志保のエイサー（1965 年頃）

波平子ども会のエイサー（1990 年）

地震のときのじゅもん

「ちょーちか ちょーちか （経塚、経塚）」

〈おにもち〉ムーチー

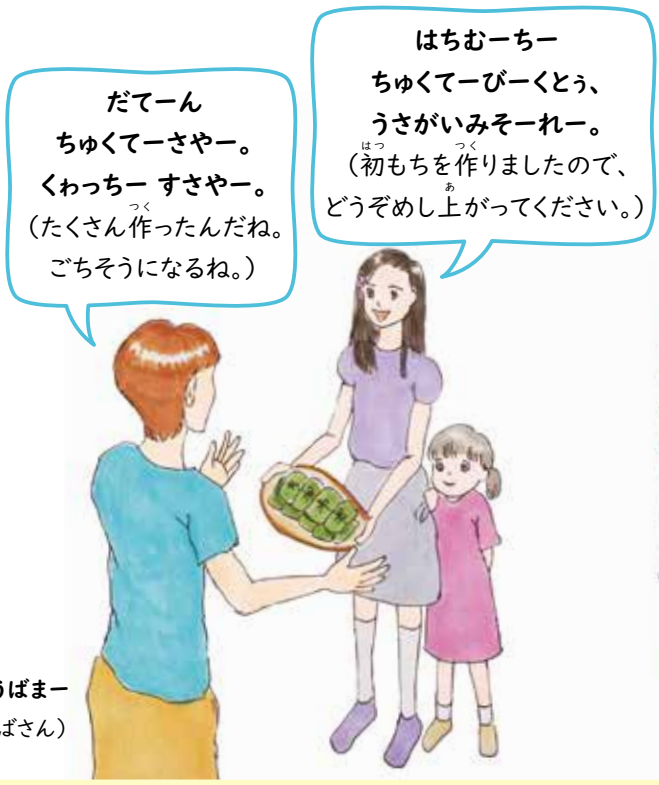
旧暦12月7日か8日に、健康祈願のため、**シワーシムーチー**（師走もち）とか、**ウニムーチー**（おにもち）といって、**サンニンガーサ**（げっとうの葉）に包んだ**ムチ**（もち）を作ります。その年に子どもが生まれた家では、**ハチムーチー**（初もち）といって、たくさん作って親せきや近所に配ります。もちは、それぞれの子どもの年れいの数だけつるします。もちを煮た汁は、「**ウニヌ　ヒサ　ヤチュン**（おにの足を焼く）」といって庭にまきます。また、もちを食べた後の**サンニン**の葉2枚で十字形を作り、まよけとして軒に差します。

渡慶次小学校で地域のお年寄りとムーチー作り（1985年）

さんにん（げっとう）

さぎむーちー（下げもち）

をうじゃさー
（おじさん）



をうばまー
（おばさん）

ちゅけーとぅないぬ っちゅ
（近所の人）

ムーチーのはじまり

むかし、お兄さんがおにになってしまったので、妹が石の入ったもちを食べさせて、がけからつきおとしてたいじしたそうだよ。その日が12月8日だったので、そのときから毎年12月8日にはウニムーチーを作って、やくばらいをするようになったんだって。

雷から身を守るじゅもん

「**くゎーぎぬ　まーたー　くゎーぎぬ　まーたー**　（くわの木のまた、くわの木のまた）」

この本は、子どもが生まれてから十三祝いまで、どのように成長が見守られてきたかをしまくとぅばで紹介しているよ。便利な世の中にあっても「強く、丈夫な子に育ってほしい」と神様にお祈りをしたり、まものから守るためのまじないなどを考えて、すこやかな成長を願う心は今も昔も変わらないんだ。

みなさんも、自分の生まれたときのことを、お父さん、お母さんから聞いて、興味を持ってくれたらうれしいな。

ここで紹介した言葉をひとつでも覚えて使ってくれることが、しまくとぅばを残していくことにつながるので、ぜひ、チャレンジしてみてね。

【調査協力者・機関】

読谷山シマクトゥバ愛さする会（松田平栄・長嶺善宏・古堅宗彦・玉城栄祐・源河朝法・松田榮進・喜友名昇・渡嘉敷通弘・与久田昇・上地正信・長浜眞勇）／阿波根シゲ／阿波根庸慶／阿波根庸光／上地正勝／儀保盛市／島袋勉／長浜千代／松田昌次／山内源徳／屋良朝一／屋良竹子／長浜公民館／瀬名波公民館

読谷村のしまくとぅば ～子どもの成長～

編集：読谷村史編集室

発行：2019（平成31）年3月　読谷村役場
〒904-0392　沖縄県中頭郡読谷村字座喜味2901番地
電話 098-982-9200

挿絵：真境名彩

印刷：有限会社 ドリーム印刷
〒901-0314　沖縄県糸満市座波1065
電話 098-995-1287

SUGAMINT